東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008 年 8 月 15 日

真の自由とは我欲を支配すること

親愛なる兄弟姉妹の皆様。崇高なるアッラーは他の被造物とは異なり、私達人間に、良い人間、良いムスリムになるかどうかという点で選択を行なう責任を負わせられました。この責任により、常に二つの道のうち一つを選ぶ必要が出てくるのです。この二つの道には様々な名前があります。信仰と信仰の否定、真実と迷信、善行と悪行、良いことと悪いことなど。この真実をクルアーンは次のように述べています。「更に二つの道をかれに示した（ではないか）。」（町章第１０節）われは、人間に（正しい）道を示した。感謝する者（信じる者）になるか、信じない者になるか、と。」（人間章第３節）

アッラーは、この重要な岐路において私達を無力で知識がなく、援助もなく孤独な状態で放置されたわけではありません。遣わされた預言者達や啓典によって、この二つの道の正しさや誤り、益と害を明白に示されているのです。私達の崇高な書は次のように述べています。「これがあなたの主の道、正しい道である。われは訓戒を受け入れようとする民のために、印を詳細に示す。」（家畜章第１２６節）

親愛なるムスリムの皆様。学者達は、我欲の逸脱した望みに従ってしまう人々を『虜』と呼びます。このような自我の欲望に対抗し、アッラーのご命令に従う人が、真の意味で自由であるとしているのです。クルアーンは、自我の自己中心的で逸脱した欲望に従ってしまう人を「自分の思惑を、神として（思い込む）者」（識別章第４３節）としています。預言者ムハンマドもまた、自分の自我を問い詰める者が真の勇士であるといわれています。

人の自己中心的な低俗な欲求は、自らをアッラーの道から、真実や教えへの導き、善から逸脱させ、しもべとなることから遠ざけます。自我の虜となってしまうのです。人にとって真の逸脱、囚われの身となること、そして束縛とはこれなのです。人が「その教えと徳と人間性を自我の欲望の犠牲にすること」という意味になるこの束縛から逃れることができれば、その時にこそ自己中心さやうぬぼれ、思い上がりを克服することができるのです。正しくない道、不公正さから自分を守ることができるのです。自己中心主義を克服した度合いに応じて、他者の悩みや苦しみを自分のものとすることができ、心や私達の持てる力を彼らと分かち合うことが出来るのです。

親愛なるムスリムの皆様。今日、この世界では皆、人類が世界的な深刻な問題を抱えていること、この問題に対して世界的によい徳を必要としていることを語っています。しかし個人主義や言葉上の自由主この人々にとってはこれは難しいことでしょう。なぜならこうした人にとって最大の悩み、最大の意図はよりよいものを食べること、よりよいものを着ること、性的欲求をより満足させること、一言でいうならもっと陶酔できるような人生を生きることであるからです。このような人から世界的な徳の規範への敬意を期待することは出来るでしょうか？

私達の学者や思想家達は、世界的徳の二つの基本的条件を「アッラーのご命令に敬意を払い、アッラーが創造されたものに慈しみを持つこと」とまとめています。今日の世界が深刻な形で体験している世界的な精神的、道徳的、政治的そしてその他の類似する諸問題は、この二つの条件に従って生きることによってのみ解決されるのです。